

# 頸髄損傷者における 外出制限要因の検討 ～外出状況に関する調査～

医療法人社団 らぽーる新潟

ゆきよしクリニック 訪問看護ステーション

作業療法士 ○鶴巻 恵理子 理学療法士 桑原 至  
渡部 恭子 奥田 哲也  
大澤 聡子 丸谷 温  
宇津木 隆

## はじめに

訪問リハビリで頸髄損傷の2名を担当している。受傷前は積極的に外出していたが、受傷後、外出頻度は減少していた。

その外出制限要因について調査した。

# 症例紹介

## 【症例1】

Aさん 20代 男性 平成13年 第4頸髄完全麻痺

外出場所 ( 受傷前: 川や海釣りへ行く  
受傷後: 月に2回の電動車椅子サッカー, 受診

外出制限要因: 近所へは移動できるが, 遠方へは家族の介助が必要

## 【症例2】

Bさん 60代 男性 平成19年 第6頸椎脱臼骨折

外出場所 ( 受傷前: 外食, 野球観戦  
受傷後: デイサービス, ショートステイ

外出制限要因: 肩の痛みがあり, 長距離の車椅子駆動が困難  
家族の介助なしに外出ができない

# 方法

## 1. 調査対象者

当クリニック, 訪問看護ステーションからの訪問リハビリテーションを利用している頸髄損傷者12名(男性11名, 女性1名)

## 2. 調査項目

①対象者の情報(年齢, 受傷部位, 主介護者, Barthel Index)

②外出状況の調査(外出頻度, 外出先, 同行者, 外出に対する満足度)

## 3. 調査方法

留置法またはインタビューにてアンケート調査を自宅または施設で実施.  
対象者がアンケートに記入し, 記入困難な場合は家族に記入を依頼した.  
独居の方は訪問リハビリ担当者(理学療法士4名, 作業療法士3名)が記入した.

# 結果

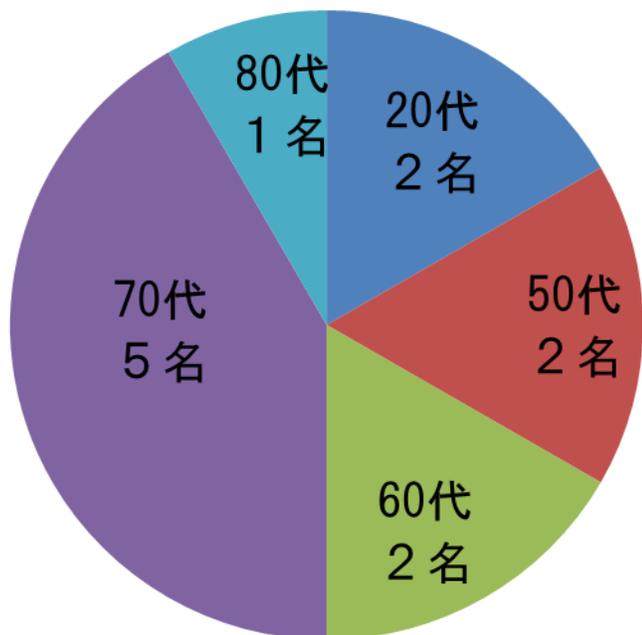
1. 回収率:100% (12名中12名)

2. 対象者の情報

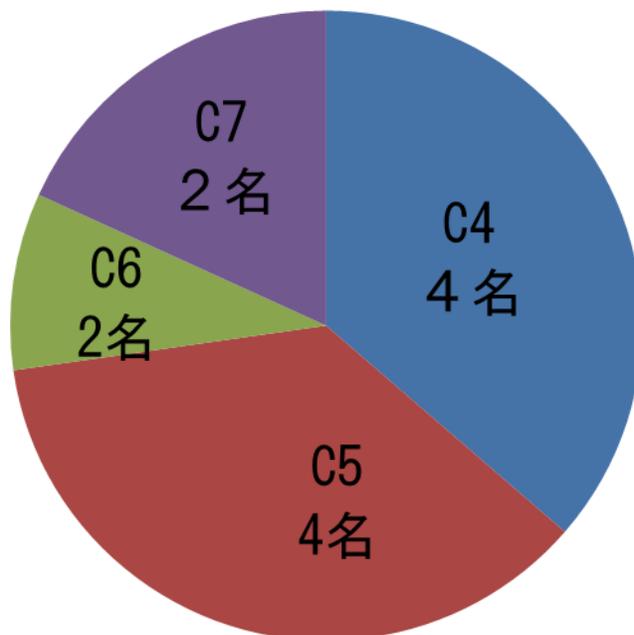
受傷経過期間:平均90.3±56.1ヶ月

## 年齢

平均74.4±18.9歳

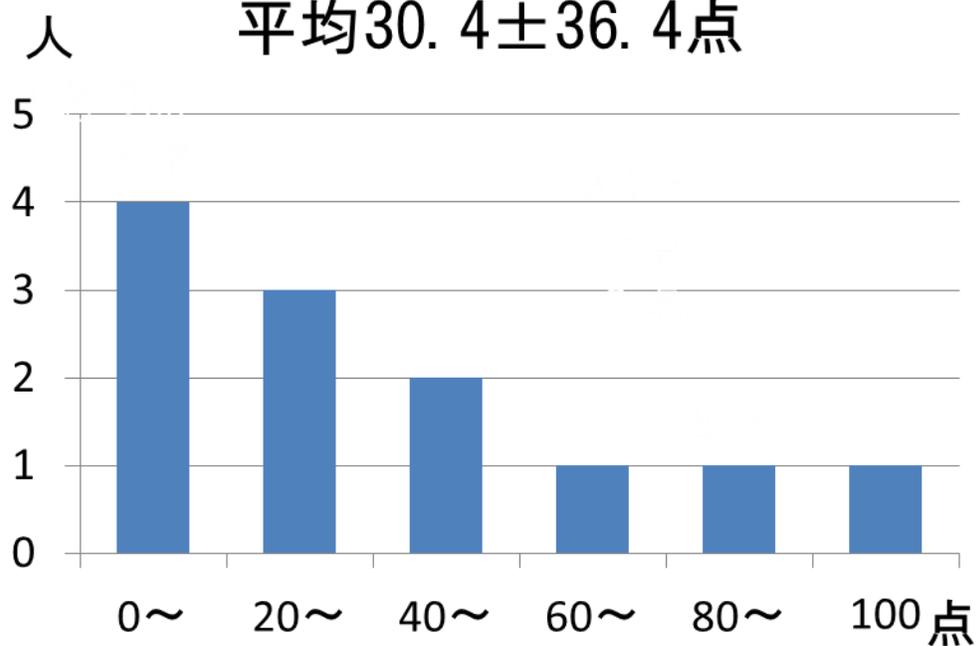


## 受傷部位



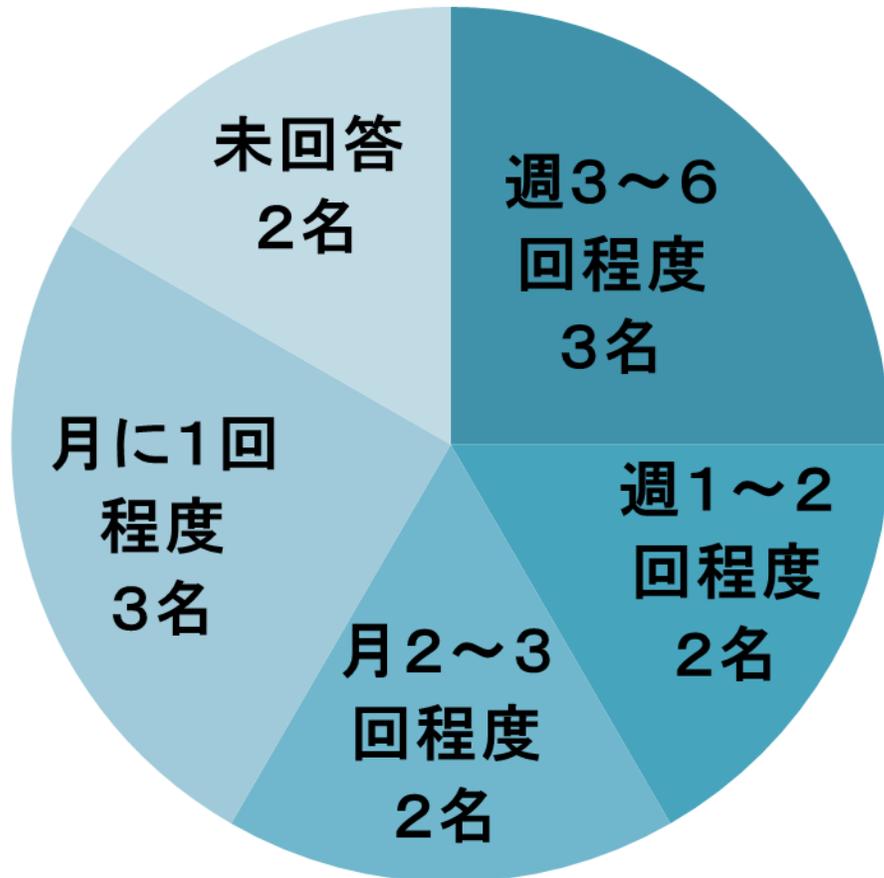
## Bartehl Index

平均30.4±36.4点



# 外出頻度

## 受傷後



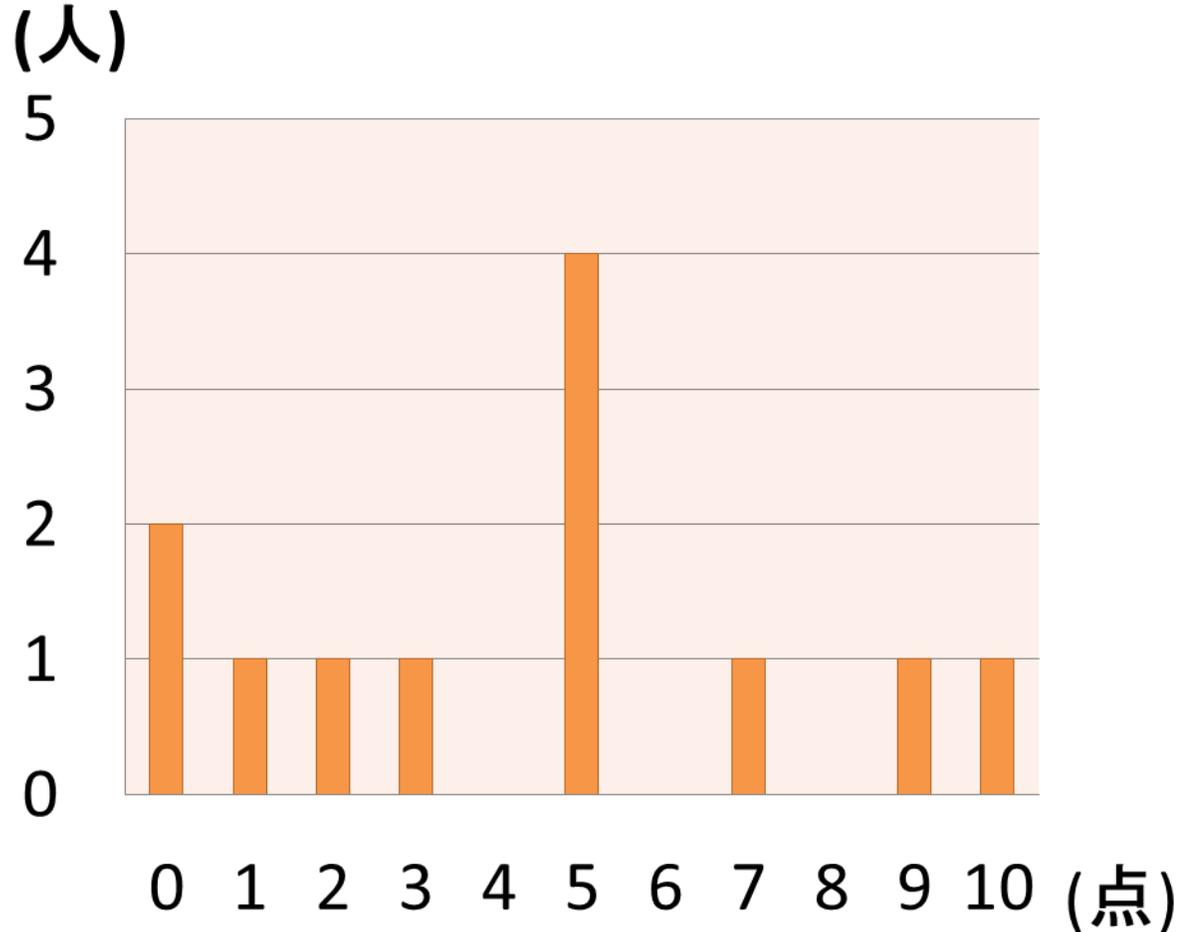
- ・回数が半減した人数→9名
- ・未回答→2名

# 外出場所（変わった人 9名，変化なし 1名 未記入 2名）

（例）

利用者	受傷前	受傷後
A	海，川	体育館，病院，スーパー
B	外食	ショッピングセンター デイサービス
C	友人宅，畑	病院，デイサービス
D	ゴルフ場	病院

# 外出に対する満足度



## 【満足していない理由】

7人中3人→身体面の不安

- ・排泄に不安がある
- ・褥瘡がある
- ・換気が良くないと呼吸が苦しくなる

7人中2人→環境面の不安

- ・車道と歩道の差がある
- ・車椅子を押す介助が必要である

全く満足していない←満足度→非常に満足している

# 結果から分かったこと

- ①外出頻度：受傷後，外出頻度は10名中9名で著減した。
- ②外出場所：10名中9名が受傷後外出場所が変わっていた。

野外活動へは行けなくなり，バリアフリーのショッピングセンターや病院，施設などへ行く人が大半になった。

- ③外出に対する満足度：12名中5名が低得点であった。
- 満足していない理由として，身体面の不安を挙げる人が7名中3名いた。

# 考察

## 1. 外出頻度について

松本(2007) 高齢化に伴い、頸髄損傷者は高齢者が多数を占め、同居介護者も高齢化している。

今回、対象者の半数が70歳以上の高齢者であり、年齢や体力低下に伴い外出頻度は減少したと考える。

### 対策

身近で容易に移動しやすい場所へ外出に誘う

## 2. 外出場所について

車椅子では、畑や斜面、段差が多い場所は行きにくく、外出場所の変更を余儀なくされていることが考えられる。

### 対策

海の見える公園など、車椅子で移動しやすい場所を探し、本人と同行者へ伝える

### 3. 外出に対する満足度について

伊藤(2007) 脊髄損傷者は、家族に必要な助けを求めることさえ抵抗感を覚え、言葉による主張も乏しくなる。

家族に対して外出の介助を依頼することに抵抗を感じ、外出に対する満足度が低下したと考える。

対策

本人の思いを傾聴し、家族に伝えるきっかけを作る

外出に対して満足していない理由として、身体機能面の不安が多く、外出への意欲が低下していることが考えられる。

### 対策

- ・全身状態と合併症の評価
- ・身体機能訓練や上肢機能訓練を行う

今後訪問リハビリに携わる者として、頸損者の外出に対する不安が軽減し、外出のきっかけが作れるよう関わっていきたい。